

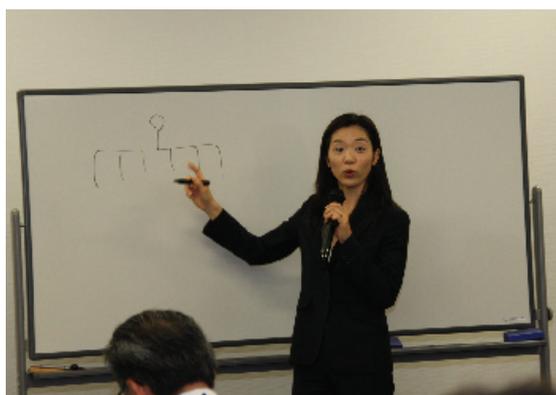
第9回 3D教育研究会

『教員のためのファシリテーション入門』 開催レポート

ダイジェスト版

第9回目となる3D教育研究会

『教員のためのファシリテーション』をテーマに開催



2009年6月6日（土）、東京都文京区本郷にある東洋学園大学の会議室にて、第9回3D教育研究会が開催された。今回も20校を超える学校および学校関係者が多数参加。

第1部は「教員のためのファシリテーション入門」と題して、3D教育プログラムと密接な関係にある「ファシリテーション」の専門家でもあるGNF理事、NPO法人学習学協会研究員の山田智恵氏を講師にお招きし、ファシリテーションの考え方や基本スキルの習得についての講演を頂いた。参加者との実践も交えながらのご講演は普段とはまたひと味違った頼もしい時間となった。

第2部の懇親会も和やかな雰囲気で行なわれ、各学校間の交流が深められ、有意義な意見交換の場となった。

以上の内容で、今回の研究会は無事、大成功で終了した。

3D教育研究会会長挨拶 順天中学・高等学校 副校長 片倉 敦先生

双方向の授業というものが如何に生徒のやる気、モチベーションに繋がるか

今日はちょっと趣向を変えまして、先生方が生徒になっていただいてこのファシリテーションという技法を体感していただき、これを是非学校に持ち帰ってグループコミュニケーションに活かして頂きたい、又は授業に活かして頂きたい。双方向の授業というものが如何に生徒のやる気を持上げていくか。モチベーションを喚起していくかというのを是非、体感していただければと思っております。

現在では、新任研修なんかではすぐエンカウンターとかファシリテーション研修は必ず入っています。どうも40才を過ぎた学校の先生たちは、こういうのは苦手だという先生が多く、そういう意味ではこういう所に来て頂いたというのが、私はとてもうれしく思っております。まず今日は、生徒に成りきって頂いて自由に発言して頂いて、このファシリテーションというものがどういうものなのかというのを体感して頂ければと思います。

本日は国際ファシリテーション協会の理事をなさっていらっしゃいます山田智恵先生に来て頂いております。今日は先生どうぞ宜しくお願い致します。



GNF 理事 NPO 法人学習学協会 研究員 山田智恵氏

ファシリテーションとは？



ファシリテーションのファシリという言葉は、語源としては「物事を容易にしていく」とか、「促進していく」とか、そういう意味を持った言葉なんです。ファシリテーションとは一方通行の講義形式ではなく参加型のワークを通じて体験、振り返り、気付きなどをグループダイナミクスを活用することにより、参加者同士の学びのプロセスを容易にしてサポートすること。普段、講義形式だとどうしてもこう1対1、1対マスに対してやっているのに対してファシリテーションというのは、色んな関わりの線が増えていく訳なんです。この線がどんどん増えていくことをよりサポートしていくこと。さらに言うと、このグループ、クラスが、さらにスパイラル上に成長していく、そんなサポートをしていくのがファシリテーションの基本的な考え方なんです。一言で説明すると何ですかと聞かれると産婆さん、助産師さんみたいな役割です。そういう風に私は言っているんです。出産するのはお母さんです。横でサポートし力づけ、勇気づけ、そばに居て見守る、そんな役割をファシリテーターの面を表しているという風に考えております。

■自己紹介タイム

当日集まった約30名の先生方による最初の実践時間。自己紹介形式で「〇〇学校の〇〇でございます。」という簡単な自己紹介に加え「最近のグッドニュース」を一言付け加えるというもの。

制限時間内で出来るだけ多くの先生達とのファースト・コンタクトの時間となった。

単純に人が話すと、場への影響って大きいんです。この空気間を自分の言葉で表すと今、どんな状態になっているのか？これを意識する、言語化するだけでもその場の掴み方って実はすごく変わってきます。何となく変化してるだけでは無く、そんな事も実はティップスの一つなのです。



■雑談タイム

面識の無い先生方同士が2人組を作り、数分間雑談の時間が持たれた。

他の先生方と、こういうところでじっくり聞いてみると、自分の個人的に持っている課題とか、もうちょっとこう出来たらいいのに等というアイデアを他の先生がたくさん持っている可能性がある訳です。やはり参加型の学習というのは色んな可能性を秘めているプログラムだと思いますので、色んな知恵を繋いでいって貰えたらなと考えています。

経験の差があったり、もちろん得意不得意もあると思うので解決まで至らなくてもお互いに話をする時間を取る。意識的に。会議の最初のとこで5分間話しをしてみるとか、学校の中の財産を高めていくという意味では非常に重要なこと。これは実はファシリテーション的な関わり方というふうに言えます。

■インタビュー・ゲーム

2人組を作り「教員になって最高の体験」をテーマに話し手、聞き手に分かれての5分間づつのインタビュー・ゲーム。ゲーム終了後には以下のような感想が出ていた。

「もっと聞いてみたい」（聞き手側）

「爽快感でいっぱい」（話し手側）

「ちょっと感激、戻ってくるような感じ」（話し手側）

共通のお仕事をされている訳ですから、現場がどんなに違ってても生徒さん達が違ってても、学校の環境が違ってても凄く共感できる場所ってきっとあったんじゃないかなとすごく思います。



■グループ内にシェア

6人グループとなり、インタビュー・ゲームで聞いた良い話を1分間にまとめ上げ、他の人にシェアするといった時間。

「聴く」「見る」「質問」この3つが基本中の基本。人に関わる仕事をしている人間は「聴く」ということが基本中の基本だと思います。カウンセリングの業界でも言うでしょうし、ファシリテーションでも言うと思うんです。聞き方のレベルや深さ、見方、質問の仕方。この狙いの使い方によって随分と変化はしてくるのです。



■ブレインストーミングの時間

「効果的なグループ学習とは」をテーマにグループ対抗でゲーム性を持たせたブレインストーミング。

今ファシリテーションのスキルのなところを言うとブレインストーミングをやる前に非常に時間を短くくぎった訳です。短い時間でたくさんというハードルを上げたり、競争をさせるとか。単に相手を出すだけでなく、ゲーム性をもたせると、なぜか人間はやる気になっちゃうんです。絶対勝ちたいとか。これは結構ちっちゃい仕掛けなんですけど、少し工夫するといくらかでも使える手だったりするんです。これもスキルの一つです。



■ブレインストーミングの結果

それぞれのグループより、以下のような意見が出されていた。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がリラックスできる ・楽しい、誰が？生徒も先生も ・チームワーク ・よい教材 ・全員にしゃべらせる ・素直になる ・前向きな気持ち ・人数設定 ・思いやりを持つ ・単純なことを繰り返させる | <ul style="list-style-type: none"> ・否定しない ・KA教育を利用する ・明るい雰囲気 ・テーマを明確にする ・時期 ・拍手 どんな時？（しゃべった後には） ・プラス思考で考える ・アイデアの組み合わせ ・自分を理解する |
|--|--|

「先生方が見ているクラスにとって何が効果的でしょう」という聞き方をしたんですがプログラムの狙いというのはもちろんあります。一つ一つの枠の中に。ところが、先生方というのはもう一段上の目標もある訳です。クラス運営であるとか、一人一人の成長であるとか。そこから見た時に自分がファシリテーターとして立つわけです。その時に狙いをどこに持つのか。狙いをご自身の、先生方ご自身の狙いを持って運営する。意識が変わるので、関わりかた、見方、聴き方、話し方、質問の仕方、当然変わってくるものなんです。これを是非やってみてください。ご自身でやるもよし、同僚の先生方とどんなアイデアありますか？など、話しながらやってみるとか。あえて意識的にそういうのを入れてみる。狙いを持つ。これが明確化なんです。ファシリテーターにとって、これもスキルの一つなんですけど、明確化して場に臨む。これもスキルの重要なポイントです。もう一つ参加型の授業というのは、学習として定着しやすいっていう効果がやはりあるのです。

■3つの要素「場づくり」「プログラム」「ファシリテーター」

大きな意味で場作りは目的の明確化。今日何をするのか、そこが明確であるか、ちゃんと伝わっているかどうか。これが大事なポイントなんです。もう一個大事なのが心の環境なんです。2人で話すとか、話しやすいテーマで話すとか、皆さんの心の温度が上がるテーマを最初に設定して話してもらう。明確化と心の環境。運営のところだけにやっぱすごく下準備を考えがちだったりすると思うんですが、その前の段階から少し意識を持ってみると良いかと思います。

次に聴く側の姿勢。聴く態度としても、話す態度としても、体がそれに慣れていないので、それだけで異常に緊張感が上がってしまったりするのです。実はすごくもったいない話、だと思ふのです。空気感とか聴く態度とか、ずいぶん変わってきます。話をする時も聴く時も、姿勢によって入り方が変わってくるのです。単純に人間の動物的な行動というふうにもいわれていますが、だからこれを、意識的に、ゲーム性をもたせ

たり、何らかの方法で聞く姿勢というのを上手く最初に取り入れてあげるのが効果的なクラスや、時期がある場合があります。

それらの事前準備があった上で、プログラムに入って行くわけです。先生方の姿勢、在り方、関わり方。マインドによって変わりますという話です。関わる側がきつこうだろう、という思いを持って行動すると、声の掛け方、見方、聴き方、質問の出し方、関わり方、すべて変わってきます。どういうマインドセットで先生方が生徒を見るか、グループを見るか、チームを見るかによって、生徒側から出てくる答えは大きく変化をしていくということです。

■自分と他者、自己理解と他者理解

自分が知っていて、他人も知っている事、自分も他人も知らない事、未知の領域ってあるわけです。自分は知っているけど他人は知らない事、自分は知らないけど、人はよく知っているなんてことがあるんです。グループ学習等をやっていくとどこが広がっていくかっていうと、いまの自分自身が、他者からフィードバックをもらう事であったり、ほめてもらったり、承認してもらったり先生方にフィードバックもらったりすることで、自分のとらえてなかった自分というのが広がっていく。さらに言うと意識が変容していったり、行動につながっていったりということが起こっていく。



もう1点は自分は知っていて他人が知らない強みを自分で話していき、オープンにしていく。参加型学習というのはうまくここを広げていくということをやっているからこそ、論理的思考が高まっていったり、コミュニケーション能力が高まっていったりということに繋がっていくのです。

■プレゼント交換

最後に「プレゼント交換」と題し、この日のファシリテーションのポイントを活かしつつ、同グループ内の先生に対して、それぞれがその先生の印象や気付いた点をフィードバックするという学習が行なわれた。



懇親会



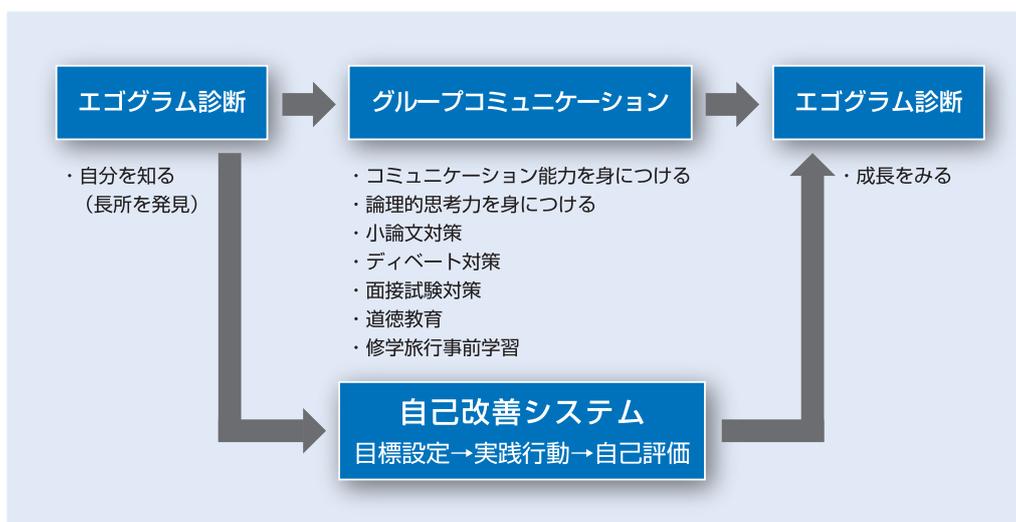
懇親会場にて撮影した記念撮影（写真上）



夢を与える、夢に向かわせる、夢を実現させる。



「**道徳の時間**」、「**総合的な学習の時間**」、「**ロングホームルーム**」
を活用した“**3D教育プログラム**”を提供します。



KA教育は「子供に夢を与え、夢に向かわせ、夢を実現させる」ための教育プログラムや指導ノウハウを開発・提供し、「教育現場の先生方のスキルアップ」と「保護者の意識改革」（＝家庭教育の重要性）を目指しながら「子供達が21世紀の厳しい社会で通用できる人財に成長する」ことを応援します。

出来る・大丈夫・大成功

3D教育研究会

2009. 6.6 第9回 3D教育研究会 in 東洋学園大学

株式会社 K A 教育

〒173-0012

東京都板橋区大和町 12-12

03-6784-7675